

要件事項	<p><NACCS パッケージソフト> パッケージソフトの undo/redo 機能改善</p>
機能概要	<p><変更前仕様></p> <ul style="list-style-type: none"> ・元に戻す(undo)機能では、1項目ごとに直前の編集履歴のみ保持している。 ・やり直し(redo)機能が存在しない。
	<p><変更後仕様></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務画面ごとに、編集履歴の保持を可能とし、複数項目をまたいで元に戻せるようにする。 ・業務画面ごとに、複数項目をまたいだやり直し(redo)機能を新規追加する。

1. 変更内容

(1) 履歴管理機能の新規追加

元に戻す（以下、undo）、やり直し（以下、redo）を可能とするため、業務画面に履歴管理機能を新規追加する。

① 履歴管理単位

履歴管理の単位は「業務画面」ごととし、業務画面をまたいだ undo/redo は実施不可とする。

② 履歴保持単位

履歴保持する対象は、業務画面の業務固有部分（図1の赤枠の範囲）の対象フィールド（*1）とし、業務画面を開いてから閉じるまでの入力値とする。

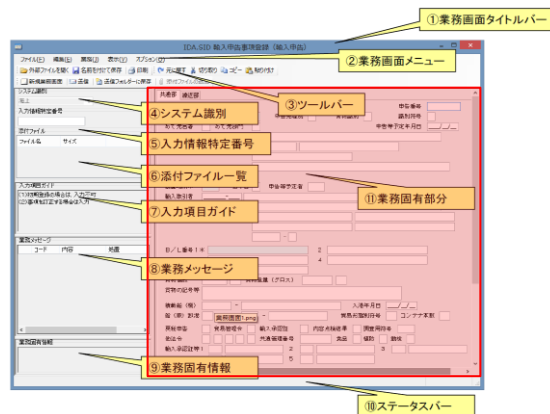


図1 業務画面の業務固有部分

(*1) 「別紙 02_履歴保持対象フィールド」のとおり

③ 履歴保持契機

履歴保持する契機は、フィールドのフォーカス移動、または、メニューアクション(*2)を実施（以下、項目編集）した場合とし、その時点の当該業務画面の入力値を履歴保持する。ただし、項目編集前後で入力値の変更がない場合（入力せずに次フィールドにフォーカス移動した場合等）、新たに履歴は保持しない。

(*2) 切り取り、貼り付け（、元に戻す、やり直し）
行の貼り付け、行の挿入、行の削除

(2) 元に戻す(undo)機能の変更

undo を実施すると、直前の項目編集を元に戻し、元に戻した項目にフォーカス移動、全選択状態とする。また、redo 機能を使用可能とするため、undo 実施前の業務画面の入力値を履歴管理する。

(3) やり直し(redo)機能の新規追加

① やり直し(redo)動作

redo を実施すると、undo にて取り消した項目編集を再度やり直し、やり直した項目にフォーカス移動、全選択状態とする。なお、redo 可能な項目編集は undo で取り消した項目編集のみとし、undo 実施後に項目編集を行った場合は redo 不可とする。

② メニュー追加

業務画面メニューに[やり直し]メニューを追加する。また、メニュー追加に伴って、オプション設定機能にて、ユーザーキー設定、ツールバーカスタマイズ設定を利用者にて変更可能とする。

③ リリース時のユーザーキー設定状態

本機能リリース後のパッケージソフト初回起動時に、ユーザーキーを初期値 (Ctrl+Y) に割り当てる。

なお、既に他機能に Ctrl+Y が割り当てられている場合、redo にユーザーキー割り当ては行わず、他機能に Ctrl+Y が割り当てられたままとする。そのため、redo へのユーザーキー割り当ては、手動で行う必要がある。

④ リリース時のツールバーカスタマイズ設定状態

本機能リリース後のパッケージソフト初回起動時に、ツールバー表示対象とする。

2. 変更対象業務

- ・ N A C C S パッケージソフト本体

3. 添付資料

- (1) 別紙 01_動作イメージ
- (2) 別紙 02_履歴保持対象フィールド
- (3) 別紙 03_履歴保持契機対象メニュー

4. リリース予定日／サービス開始予定日

- (1) 端末資材

端末資材：2023年03月28日（火）16:00